学校だより
# 稲荷台
令和６年１月31日
２月号
横浜市立稲荷台小学校

## １９９４年生まれの人達

校長　中山　正之

厳しい寒さが続いています。年明けから一か月になりますが、能登半島地震で被災された方々の生活の回復はまだ時間が必要なようです。学校では児童運営委員会が今年の募金活動を能登の方々に向けて行おうとか、４年生が社会科で校庭の防災備蓄庫について調べてみようとするなど、今回の災害を身近なものとしてとらえ、考えようとしています。復興の推移を見守りながら、自分達にできることを考え続け、長期的な視野で取り組んでいってほしいと思います。

さて、昨年末から話題になっている大谷選手のグローブが本校にも届きました。１月２６日に到着したので、２９日の朝テレビ放送で全校に紹介し、その日の２時間目から、体育の時間割に沿って全クラスに順に貸し出すこととしました。このグローブについてはニュースで様々に取り上げられていますが、本校ではまずは全校の子ども達に実際に触れてみてほしいと考えています。そしてその後は学校の備品として、校内の活動で楽しんで使っていってほしいと思います。

ところで、大谷翔平選手はメジャーリーガーとして今や世界的に有名ですが、大谷選手と同い年のアスリートにどんな人達がいるかご存じでしょうか。以前ある雑誌の記事で紹介されていたのですが、それによると、フィギュアスケートの羽生結弦選手、メジャーリーガーの鈴木誠也選手、スピードスケートの高木美保選手、水泳の萩野公介選手、瀬戸大也選手、バドミントンの桃田健斗選手、奥原希望選手、車いすテニスの上地結衣選手、NBAプレイヤーの渡辺雄太選手などが同い年だそうです。そうそうたる顔ぶれです。記事によると、彼らは皆１９９４年生まれで、それぞれの分野で単に良い成績を残すだけでなく、常識を覆し「新たな歴史」を切り拓いていると紹介されています。そして興味深いのは、この年に生まれた選手達が優れている理由の一つとして、彼らが「ゆとり教育」を受けて育った世代だからではないか、という説が紹介されていることです。現在では「ゆとり教育」の功罪は様々に論じられるところです。ただ、「子どもの個性を伸ばす」ことを目標としていた点が、スポーツ界にとって効果があったという考え方は、確かに一理あるように思います。また、選手たちの「国際化」が進んだこと、つまり海外への挑戦を特別視せず当たり前のように挑み、外国を自在に渡り歩くようになった点も大きいと述べられています。５年前に書かれたこの記事に登場する選手達は、コロナ禍を経た今でも、その大半が第一線で活躍し続けています。大谷選手を筆頭に、どの選手も歴史の開拓者として活躍を続け、多くの子ども達のヒーローとなってほしいものです。

２月になると、５年生の外国語で“Who is your hero?”（あなたのヒーローは誰？）という単元を学習します。自分のヒーローは誰か、なぜそう思うのかを英語で発表する活動です。この単元が始まると、子ども達のヒーローを担任の先生に教えてもらうようにしています。今年はグローブ効果で大谷選手が人気なのか、それともサッカー選手なのか、アニメのキャラクターいやユーチューバーかもと、想像するのはとても楽しいものです。学習が始まるのを期待して待ちたいと思います。

（参考：松原孝臣氏「羽生結弦世代」『文藝春秋』2018 年 12 月号）